



支笏湖 (第 7G)

Rotary International District 2510

# GOVERNOR'S Monthly Letter

2022-2023 ガバナー月信

7

2022 July

No.1



**国際ロータリー第 2510 地区**

**2022-2023 年度 ガバナー 石丸 修太郎**

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西 11 丁目 4 大通藤井ビル 7F

TEL (011) 207-2510 FAX (011) 207-2512

E-mail: rid2510@pxva.ne.jp <http://rid2510.org>

## 2022-2023年度 国際ロータリーのテーマ 「イマジン ロータリー」



### 国際ロータリー第2510地区 2022-2023年度テーマ 「ロータリーに想いを馳せる」 ～明日のロータリーに夢を込めて～



#### 【地区目標】

- ① クラブの将来像を打ち立てる
- ② より多くの会員の参加を得てクラブにおいて新たな事業に取り組む
- ③ 青少年への支援を発展・充実させる
- ④ ICTも利用して交流の輪を広げる

#### CONTENTS

● 石丸修太郎ガバナー就任ご挨拶 ----- 1	● 2022-2023年度ガバナー補佐就任ご挨拶 ----- 5
● 松浦光紀ガバナーエレクト就任ご挨拶 ----- 2	● 2022-2023年度地区委員長就任ご挨拶 ----- 11
● 出村知佳子ガバナーノミニー就任ご挨拶 ----- 3	● ガバナー四方山話 ----- 23
● 大日向豊吉直前ガバナーからのメッセージ ----- 4	● 表紙の解説（第7グループ） ----- 24



## ガバナー就任挨拶

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度ガバナー

石丸 修太郎

(札幌西RC)

国際ロータリー第2510地区の皆様、当地区のガバナーの役目を引き受けることとなりました石丸修太郎です。7月1日より1年間、自分として出来る範囲で努力しますので、宜しく願い申し上げます。

地区の活動テーマを「ロータリーに想いを馳せる」～明日のロータリーに夢を込めて～とさせて頂きましたが、これは国際ロータリーのテーマである「Imagine Rotary」を日本人的な発想に置き換えたつもりのものであります。皆様も自由な発想でそれぞれの活動テーマを考えて頂ければと思います。クラブとしてのテーマ、委員会活動のテーマなど活動を行う上での意識を仲間と共有してみることでロータリーの存在意義に華が添えられると思います。

ロータリーと言う任意団体に加入された方がロータリーの中で活動を行うことに対するモチベーションは、良い仲間と良い活動というのが大原則です。そしてそれらの活動からプラス思考でこのロータリーという組織を利用してそれぞれの会員が成長し発展することがロータリーそのものの発展に繋がります。

会長エレクト研修セミナーと地区研修協議会においてお話しさせて頂きましたが、地区の役目は、地区の独自の事業を除いて、そのほとんどが各クラブの活動の支援を行うことと考えています。各クラブとして個々の会員が発展するこ

とを意識して行う活動はあまり無いと思います。様々な活動において結果的に会員の成長に資するものが多くあると思います。

特にクラブが中長期の計画を持つことで、その目標に対するクラブにおける活動は継続性が求められ、参加される会員の意識の向上につながることを期待されます。

地区目標の「クラブの将来像を打ち立てる」としたのはこのような考えからです。5年後どのようなクラブとなっているのか？どのような活動を行っているのか？どのような会員構成となっているのか？どのような交流ができているのか？等々是非、クラブの皆さんとお話ししてみてください。

色々な意見が出てくると思います。それぞれの意見について耳を傾けてその意味することを理解してみましょう。そこに多様性があります。そしてまずは、だれもが賛同できることから始めましょう。皆様の活動がより多くの会員の皆様に対するプラスの影響を与え、活動の輪が広がることができたらとても素敵なおことだと思います。

皆様方と共に夢のあるロータリー活動が出来ることを大いに期待して私の就任挨拶といたします。



## ガバナーエレクト就任挨拶

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度ガバナーエレクト **松浦 光紀**  
(小樽南C)

2021～22年度は、大日向ガバナーの基、ガバナーノミニーとして、ロータリー活動に係る多くの体験をさせて頂きました。感謝申し上げます。又パストガバナーの方々、又各委員会の皆さまには大変お世話になりました。2022～23年度の石丸ガバナーは、地区テーマに「ロータリーに想いを馳せる」～明日のロータリーに夢を込めて～と述べられております。

ジョニファー・ジョーンズRI会長は、ロータリーの多様性、公平さ、インクルージョンを取り入れる努力に於いて、インクルージョンの鍵となるのは、障壁を取り除くことであり、インクルージョンこそが、会員増強の鍵となると述べられております。ロータリーは今、改革の途上にあります。ロータリーでの参加型の奉仕、人間的成長、リーダーシップ開発、生涯に渡る友情を通し、活動目標を理解し、共有することが、難しい改革に取り組む第一歩となると思います。私は、大日向年度のガバナーノミニーとして、インターアクト委員会、ローターアクト員会、ロータリー財団委員会、米山記念奨学委員会、地区戦略計画委員会、地区諮問委員会、地区会員増強委員会、ガバナー補佐委員会等会議やガバナー補佐研修に参加させて頂きました。まだまだ私が参加していない委員会は沢山あり、ガバナーエ

レクトとして石丸年度の活動計画に沿い準備を重ね、改革事業を継続させて頂く所存です。其々の課題にチャレンジが欠かせません。それぞれの課題に対し、長期の戦略計画を立案されていると思います。2023～24年度、2024～25年度と改革は続きます。一步一步、事業の継続の担保と新しい改革は欠かせないと思います。地区のクラブ会員、クラブ会長、地区委員会メンバー、ガバナー補々、パストガバナーの皆さまの絶大なるご支援をお願い申し上げます。

- 職業分類 ファイナンシャル・プランナー
- ロータリー歴
  - 1989年第2780地区第1グループ
  - 三浦ロータリークラブ入会
  - 2006年12月15日小樽南ロータリークラブ入会
  - 2017-2018年度 クラブ会長
  - 2021-2022年度 第6グループガバナー補佐
- その他
  - メジャードナー
  - 米山メジャードナー



## 平和のバトンを繋いでいきたい

国際ロータリー第2510地区

2022-2023年度ガバナーノミネー 出村 知佳子  
(札幌北RC)

2024-25年度のガバナーに推挙されてから、早いもので半年も過ぎました。突然の思いもしない出来事に大変驚き、今後に対する不安で自分の気持ちに整理に少し時間がかかりました。頼りなく感じられ、御心配頂いている会員皆様も多いと思います。また、世界中で様々な悲しい出来事が起こっている中で使命を感じ、私自身も少しずつですが、信念と覚悟ができたように感じています。2022年2月24日ロシアによるウクライナ軍事侵攻が勃発し、平和は一瞬で崩れ去ることを実感させられてしまいました。ロータリーの使命は、職業人と地域社会のリーダーのネットワークを通じて、人びとに奉仕し、高潔さを奨励し、世界理解、親善、平和を推進することです。(RIホームページ・ロータリーとは)平和を願う私たちの願いとは裏腹に、目を覆いたくなるウクライナの報道を見るたびに、とても心が痛い毎日が続いています。そんな中、クラブの仲間が例会等でウクライナ支援の募金箱を設置したり、積極的に活動し、またゴールデンウィーク中には、我が札幌北ロータリークラブ、地区財団や国際奉仕の関係者有志にて、札幌駅前前でウクライナ支援の募金活動を行いました。大変多くの市民や観光客の皆様にご賛助を頂き、また「頑張って」「ありがとう」「宜しく頼みます」と多くの温かい声も頂きました。

このように、TEAMの力があれば、多くの事を実践でき、私たちの思いを形にすることができることを改めて痛感致しました。

今私たちにできることは、毎日この悲惨な攻撃が一刻も早く終わるよう、平和の為に活動していくことです。そして、「平和」を次の世代に繋いでいくことも私たちの責務でもあると思っています。

石丸修太郎ガバナー、松浦光紀ガバナーエレクトの後ろ姿を拝見し勉強をさせて戴き、パストガバナー、諸先輩の皆様方から貴重なアドバイスを頂きながら、大好きな札幌北ロータリークラブの仲間、これまで一緒に活動してきた地区のロータリー財団関係委員、奉仕部門委員皆様に引き続きお力をお借りしながら、準備を進めて行きたいと思っています。力不足の私でございますが、今後ともお力添えを宜しくお願い致します。

■職業分類 空気調節配管工事

■ロータリー歴

2002年 1月28日 札幌北ロータリー入会

2016-2017年度 クラブ会長

■その他

メジャードナー (レベル4)

米山メジャードナー



## 祝 出航

国際ロータリー第2510地区

直前ガバナー

大日向 豊吉

(函館五稜郭RC)

清々しい風の吹き抜ける盛夏の候。  
船首に国際ロータリーの旗を高々と掲げ、出航の合図を告げるドラの音は低く高く鳴り響き、多くのロータリアンに見送られ、準備万端！修太郎丸はR I 2 5 1 0 地区12グループ69クラブに向けて静かに出航致します。地区代表幹事以下地区幹事の皆様宜しくお願い致します。

小柄なら神輿に静かに座って居れるでしょうが、石丸ガバナーはブレザー生地1.5人分ほど使う体格ですから、神輿から張り出す事と思います。

石丸ガバナーに「神輿の上で静かに、寛いで居て下さい。」と言っても、身体から溢れ出すエネルギーは黙ってはおれず、私以上にロータリーの為、R I 2 5 1 0 地区の為サービス精神を積極的に行動される事と思います。私は、ノミニーの時、大先輩から「人生はマママアと言う事もある。」との御指導を頂きました。

また、ある時、「各クラブの公式訪問の折には、必ず良いところを見つけ、褒めることが必要である。」と教えて頂きました。

特に、ガバナーはクラブの訪問を始め、周年行事・インターシティ・ミーティング等々、訪問の機会が多くあるので「公式用のネクタイは複数本、御用意をされていた方が宜しいです。」との御指導も頂きました。

石丸ガバナーにおかれましては、職業上、原稿なしで20分～30分程度お話をされることは、日常茶飯事と思います。

各クラブにはロータリー大好きという方が必ず数名おられると聞いております。

私のように調子よく話して揚げ足を取られるようなことは無いと思いますが、ロータリーにおける持論をお話する機会も多々ある事と思います。

ジェニファー・ジョーンズR I 会長は、

【イマジンロータリー】

「会員が夢を実現するために行動し、クラブの魅力を最大限に味わえる場としてのロータリーを思い描き、互いの繋がりを深めることによって世界に変化をもたらすパートナーシップを築くよう会員に呼びかけています。」

昨年度のテーマは【奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために】でした。

R I 会長テーマは本当に素晴らしいと感動致します。

故に、ガバナーの殆どは、ロータリーに真っ直ぐのめり込んでしまうと思います。

当然、会員との間には温度差があります。この辺をよく理解しながら無理なさらず、

A f t e r コロナを考えず、健康に留意しながら一年間行動をお願いしたいと思います。

何時も夢を描いているパストガバナーより。

## ガバナー補佐就任挨拶



第1グループガバナー補佐  
忠津 章

### 「就任にあたって」

今年度、第1グループのガバナー補佐を務めることになりましたが、各クラブの会長・幹事をはじめ、会員皆様のご指溝・ご協力を頂きながら、地区と各クラブをつなぐ役割を果し、スムーズなクラブ運営ができる様役立てればと思っています。

石丸ガバナーは地区テーマを「ロータリーに想いを馳せる」～明日のロータリーに夢を込めて～とし、地区目標として

1. クラブの将来像を打ち立てる
2. より多くの会員参加を得てクラブにおいて新たな事業に取り組む
3. 青少年への支援を発展充実させる
4. ICTも利用して交流の輪を広げる

の4項目の地区目標を掲げました。

第1グループを取り巻く状況は、人口の減少（会員の減少）、高齢化、コロナ禍での経済環境の厳しさ等々、多くの問題を抱えこれらの目標実現の為に、各クラブ間の連携と問題の共有、そして何よりも大事なのは“ロータリーが楽しい”と、会員1人1人が思うクラブではなくてはならないと思っています。ジェニファー・ジョーンズRI会長は、「私たちは皆夢があります。しかし、その実現のために行動するかどうかを決めるのは私たちです」と言っています。

各クラブの皆様方が、「行動・一歩前へ」を合言葉に楽しいロータリー活動になる様、心からご祈念し就任のご挨拶と致します。



第2グループガバナー補佐  
高山 訓正

### 「ご挨拶」

この度R I2510地区第2グループガバナー補佐を仰せつかりました滝川RCの高山訓正でございます。

この2年間コロナウイルスのため地区においてのロータリー活動が非常に制限されクラブの引き継ぎ、またクラブ間の合同行事が開催できなく残念に思うところであります

コロナウイルスが完全に収束しない中での例会活動となりますが会員相互の情報不足のときにMy Rotaryを活用して日本のみならず世界の人々との情報でロータリーを楽しみながら皆が例会に出席しさまざまな活動で、充実した時間を過ごせるようにしていきます。

ガバナーの熱い思いで新しい形での補佐会議を行いその情報伝達を少しでも一年間クラブ間のお手伝いが出来ますように努めさせていただきます。

国際ロータリー2022-2023年度テーマ

「イマジン ロータリー」 ～やさしさ、希望、愛、平和を想像して～

国際ロータリー2510地区テーマ

「ロータリーに思いを馳せる」 ～明日のロータリーに夢を込めて～

石丸修太郎2510地区ガバナー地区目標

1. クラブの将来像を打ち立てる
2. より多くの会員の参加を得てクラブにおいて新たな事業に取り組む
3. 青少年への支援を発展・充実させる
4. ICTも利用して交流の輪を広げる

最後に今年1年間よろしくお願ひ申し上げましてご挨拶と致します。



第3グループガバナー補佐  
松下早苗

## 「ガバナー補佐就任にあたり」

2022-2023年度第3グループのガバナー補佐を拝命しました栗山RCの松下早苗です。

ロータリー歴9年と若輩、力不足ですが精一杯務めさせていただきます。

第3グループは当別RC、美唄RC、岩見沢RC、岩見沢東RC、栗沢RC、江別RC、江別西RC、栗山RCの8クラブで構成されています。

石丸ガバナーが掲げる「ロータリーに想いを馳せる」～明日のロータリーに夢を込めて～の4つの目標について皆様にご理解を深めて頂き、クラブ内における様々な活動がクラブの発展につながり、仲間と夢を共有して楽しんで頂けるように第3グループ全体で取り組めるようガバナー、地区各委員会、クラブ間を繋ぐパイプ役を目指しています。

約2年にわたるコロナ禍で様々な活動が中止、延期になってしまいました。その中でもオンラインやハイブリットという形で前に進んでまいりました。先輩会員に新入会員がパソコンの手ほどきをするなどの交流も生まれています。このように常に新たなステージに向い進化しています。ロータリーには変えてはならないもの、時代に合わせ変えていくものがあります。グループ内各クラブで情報を交換しアイデアを出し合い未来のロータリーに想いを馳せていきたいと思えます。

より良い未来へ向かっていきますよう各クラブ会長、幹事、会員の皆様に微力ですがお手伝いをさせていただきますと考えています。どうぞよろしくお願い致します。



第4グループガバナー補佐  
古野重幸

## 「ガバナー補佐就任にあたって」

本年度第4グループのガバナー補佐を仰せつかりました札幌ロータリークラブの古野です。1999年入会、2018～2019年度に会長を務めました。古い話ですが1974年、高校1年の時に2510地区からオーストラリアへ交換留学生として派遣していただき貴重な経験となりました。当時、岩見沢RCの柿本ガバナーに大変お世話になったことを思い出します。

さて、ガバナー補佐として何が出来るのか。立場上や私自身の力不足から各クラブに指示や指導は難しいと思えますので、まずは石丸ガバナーと各クラブ会長のパイプ役をしっかりと果たす。次に各クラブのクラブ活性化や会員増強の好事例をグループ内に紹介する。そのために親睦も兼ねた会長・幹事会をタイムリーに開催したいと存じます。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2年間開催されなかったIMを第5グループと共催で来年3月に開催する予定です。

グループ内7つのロータリークラブが実りある1年になるよう少しでもお手伝いできれば幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。





第5グループガバナー補佐  
平 昌夫

## 「ガバナー補佐就任にあたり」

2022-2023年度の第5グループのガバナー補佐を務めさせていただく札幌南RCの平 昌夫です。第5グループは札幌東RC・札幌清田RC・札幌幌南RC・札幌真駒内RC・札幌大通公園RC・札幌ライラックRC・新札幌RC・札幌南RCの8クラブで構成されています。

石丸ガバナーのご指導のもとPETSが終了した4月に「会長幹事会」を開催致しました。各クラブは歴史と伝統・規模・個性も様々かと思いますが、会長幹事の皆様からはクラブに対する「熱い想い」と「高い志」をひしひしと感じた次第です。「新年度の計画や構想」につきましては綿密に立案されており、「クラブの活性化」に向けて非常によく考えられていると感銘致しました。

また「他のクラブではどうやっているのだろう」「どういう風に考えているのだろう」など他クラブへの質問があり、次年度に向けての強い意欲が伝わってきた会長幹事会でした。

石丸ガバナーは地区のテーマ「ロータリーに思いを馳せる」を掲げ「クラブの活性化」を目的に4つの地区目標を立てています。昨年からは始まった「ガバナー補佐研修」でも幾度もこの事に触れお話をされました。

私の使命としましては、「如何にガバナーの意向をより分かり易くクラブに届けるか」、また「各クラブの要望・意見等をガバナーや地区に対して十分に伝えていくか」が重要だと考えています。

また第5グループの各クラブ同士が気軽に話し合え、より情報の交換や共有が図れる様にして行きたいと考えています。

そして「各クラブの活性化」に少しでもお力になれるよう努力して参ります。微力ではございますが精一杯頑張りますので各クラブの会長・幹事の皆様、会員の皆様のご協力・ご支援のほど宜しく御願ひ申し上げます。



第6グループガバナー補佐  
吉田 聡

## 「ガバナー補佐就任挨拶」

2022-2023年度第6グループのガバナー補佐を拝命しました倶知安ロータリークラブの吉田聡です。今年度IM以外に第6グループ構成クラブが協力して地域貢献活動に取り組めないものか、クラブの皆様と知恵を出し合い、ロータリークラブの奉仕の精神を地域住民の皆様にお届けしたいと考えております。一年間どうぞ宜しくお願いいたします



第7グループガバナー補佐  
五十嵐 宏

## 「ガバナー補佐就任のご挨拶」

本年度第7グループガバナー補佐を仰せつかりました、千歳RCの五十嵐宏です。千歳RCに入会して42年になります。

今、思い起こしますと、当時は職業奉仕、社会奉仕、親睦と貨献を目棚にいろいろな事業に取り組んで来ました。

そんな中で私はロータリーに入会していろんな人と人間関係を結ぶことが出来た事、そして出会いがあった事が今までの中で一番の宝かと思えます。

市内の企業、団体、業界のトップが当クラブに入っております。それを生かし、これまでの経験やロータリーの精神など持てる知恵や経験を活かし各クラブに接することが出来れば良いかと思えます。

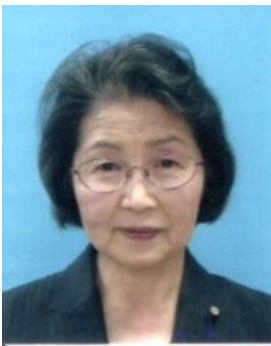
今は各クラブがコロナの関係もあると思えますが会員の減少、女性会員の入会、ローターアクトの入会などいろいろあるはずですが。

石丸ガバナーの基本概念であります、各クラブに合った将来像を手伝える事があれば一緒にいきたいと思えます。

特に会員増強には各クラブをお願いして参りたいと思えます。

まだまだ未熟ではありますが、一生懸命頑張りたいと思えますので、各クラブの会員皆様の一層のご指導とご協力も心からお願い申し上げます。

今年一年間宜しくお願い申し上げます。



第8グループガバナー補佐  
高村 洋子

## 「ガバナー補佐就任挨拶」

2022～2023年度第8グループガバナー補佐 高村洋子と申します。

様似ロータリークラブ所属、職業はサラブレッドの生産、育成牧場自らも騎乗育成調教とコンサイナー業務を経過して現在も共同経営者+作業者にカウントされています。

ロータリー史上初のR I女性会長"ジェニファー・ジョーンズ"氏の年度に深い関わりを頂く機会を嬉しくワクワク❗️期待感いっぱいです。

他にも国連UNHCR協会、地域に於いては痒いところに手が届く"子育て支援の預かり保育"etc活動中であります。

我クラブ"4つのテスト"は本当に素晴らしい！

コンパクトにわかりやすく纏められた"言の葉"に言動を照らし合わせる日々を有り難く思います。

人々と共にどれだけの時間を分けあったか？

行動や思いを費やしたか？

楽しみながら時を刻みましょう。

第8グループ初の女性がバナー補佐のご挨拶とさせていただきます。



第9グループガバナー補佐  
濱中 實

## 「ご挨拶」

2022～2023年度第9グループガバナー補佐を拝命いたしました室蘭ロータリークラブの濱中實です。3年目を迎えました新型コロナ禍の中でそれぞれのクラブでの活動は制約を受け従来の事業を実施できず、困難な状況下ではありますが、ワクチンの3回目の接種も進み、ウィズコロナの下で少しですが光明が射しかけ始めているように思えます。

さて、昨年9月に第一回のガバナー補佐会議をwebで行いました。そして10月、11月とwebで会議、12月に初めて顔合わせで会議を行いました。今年になって地区研修、ペッツ、地区協議会そして、新旧引継ぎガバナー補佐会議とハードな研修を重ねてきました。各研修では偉大なるパストガバナーの方々の講義を受けロータリーの基礎から学ぶ事ができました。この機会を与えていただきました石丸ガバナーには心から感謝申し上げます。

石丸ガバナーは「ロータリーに想いを馳せる」～明日のロータリーに夢を込めて～を地区のテーマとしました。私は第9グループガバナー補佐として、地区の、そして石丸ガバナーの熱い想いを全力で各クラブに伝えます。又それぞれのクラブの活動情報を地区、ガバナーにお伝えし、12地区のガバナー補佐の皆さんと共に考え活動し、ロータリークラブの素晴らしさを次に繋ぎたいと思います。



第10グループガバナー補佐  
玉井 清治

## 「ガバナー補佐就任挨拶」

この度、石丸修太郎ガバナーより本年度のガバナー補佐を拝命致しました。私の担当は第10グループ(函館、森、長万部、七飯、函館亀田、函館セントラル)の6クラブです。今改めて受託したその職務の重要性を再認識し身の引き締まる思いです。第10グループの皆様方には尚一層のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

さて、本年度の国際ロータリー会長ジェニファー・ジョーンズ氏のテーマは「イマジン ロータリー」であり、国際ロータリー第2510地区石丸修太郎ガバナーの地区テーマは「ロータリーに想いを馳せる～明日のロータリーに夢を込めて～」であります。それは、各クラブの将来像を打ち立て、より多くの会員の参加を得てクラブにおいて新たな事業に取り組み、青少年への支援を発展・充実させ、ICTも利用し交流の場を広げることを目標としております。

最近のロータリーは柔軟性という緩和でクラブに自立し独自性を持たせ、変化を望んでおります。それは誰のためでもなく、クラブの永続的な繁栄のためであると私は思います。新型コロナウイルス感染症が完全に終息しない昨今、クラブ運営や例会開催方法に自治権の範疇でどのように夢に向かってクラブの将来像を構築するのか、そのお手伝いや情報伝達役として皆様の「架け橋」になればと思っております。サービスの理想的なあり方、つまり「奉仕の理想」The Ideal of Serviceを現実に近づける「架け橋」です。

最後になりましたが、今後、各クラブの会員増強が計られ発展していただくため、石丸修太郎ガバナーと各クラブの「架け橋」になるよう、そして皆様のクラブが楽しい例会になりますよう、心から祈念申し上げ、就任の挨拶とさせていただきます。



第11グループガバナー補佐  
柏木 秀之

## 「ガバナー補佐就任挨拶」

この度RI2510地区第11グループのガバナー補佐を務めさせていただきます函館五稜郭ロータリークラブの、柏木秀之と申します。

2022-23年度に掲げられたRIテーマは「IMAGINE(想像) ROTARY」です。これに添って地区テーマは「ロータリーに想いを馳せる明日のロータリーに夢を込めて」と掲げられました。

石丸ガバナーの精勤なご指導の下、他のガバナー補佐の皆様と共に一年間ロータリー活動の意義、重要性等をズームミーティングを交えながら研修を重ね準備を整えてまいりました。

地区とクラブを円滑につなぐガバナー補佐としての任を果たす為、具体的な地区目標としての

1. クラブの将来性を打ち立てる
2. より多くの会員の参加を得てクラブにおいて新たな事業に取り組む
3. 青少年への支援を発展充実させる
4. ICT(情報通信技術) も利用して交流の輪を広げる

以上の4項目を念頭に置き、皆様のお力添えをお借りしながら、今後の活動に努めてまいります。

一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。



第12グループガバナー補佐  
田辺 真樹

## 「ガバナー補佐就任にあたり」

第12グループのガバナー補佐を務めさせていただくことになりました白老RCの田辺真樹です。

第12グループは苫小牧RC、苫小牧北RC、苫小牧東RC、白老RCの4クラブで構成されています。各々のクラブとも立派なクラブ運営をされておりますので、そのクラブの特性を充分生かしていけるように、地区とのパイプ役となって各クラブの発展、向上に寄与していきたいと思っておりますと共に地区ではどんな事がお手伝いできるのか、何をすればお役に立てるのかを考える一年としたいと思います。

本年度石丸修太郎ガバナーの

「ロータリーに想いを馳せる」～明日のロータリーに夢を込めて～の地区テーマを基軸にガバナー補佐として務めたいと思っておりますので、各クラブの会長、幹事、会員の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 委員長挨拶

### 「委員長挨拶」

国際ロータリー第2510地区 文献資料室委員会

委員長 高張秀人



このたび、地区文献資料室の委員長を拝命しました札幌手稲ロータリークラブの高張秀人です。他の委員会と違い、実際のところ文献資料室の活動は認知が低いと思われます。

主な活動は、ロータリーに関する資料収集や貸出、図書・DVDなどの購入です。

近年はインターネットで手に入ることも多く、購入の難しさが出てきております。

さて、貴重な機会をいただきましたので、“地区文献資料室の歩み”より歴史をご紹介させていただきます。この資料は1997年9月4日、札幌グランドホテルにて、それまで活躍した方々が一堂に会し、座談会形式で共に語り合い、委員会の足跡を辿りながら記録に残したものです。

中身を読むと、1980年頃に地区文献事務所準備委員会が初めて設けられたとあり、今日まで40年以上の月日が過ぎたこととなります。

設立の経緯については、当時の第251地区文献事務所準備委員会の意見具申書よりご紹介させていただきます。

「国際ロータリー細則等に明記してある通り、ガバナーは地区の記録や要覧を整備して、全部後継者に引き継ぐことになっているが、ガバナー事務所は1年限りで移転することや文献の保管場所がないことなどから、地区の文献が散逸しかけている現状にあるので、地区文献を完備してガバナーの職務遂行に役立てることとし、また地区内各クラブに対して、活動のための参考資料を常時閲覧できるようにしておきたい」

以上の答申を受け、地区ロータリー文庫としてスタートしました。当初は予算確保が難しかったため、メンバーの事務所のスペースを借りてスタートしましたが、その後1984年に現在の北海道ビル(北2条西4丁目)にある札幌市内ロータリークラブ合同事務所に移転しています。その間名称も「地区情報資料室」を経て現在の「地区文献資料室」となっております。現在の所蔵数はDVDがビデオから複製したものを含め149本、スライドセット18セット、CD55枚、書籍が英語版を含め123冊となっております。貸出しリストは各クラブへお渡ししております。これらの資料は一部を除き無料で貸出しておりますので、お気軽にお申し付けください。

なお、今年度は北海道ビルからの引越し、地区ホームページの活性化、紙よりインターネットでの閲覧が気軽であることなどを踏まえ、資料のデジタル化を検討し、少しずつ取り組んでまいります。40年以上の歴史を大切にしながら、これからも原点を確認できる場として時代に合わせた手法を、委員会メンバーと共に知恵を絞り活動して参ります。

皆さま、何卒よろしく願いいたします。



## 「就任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 RLI委員会  
委員長 平川 香織



当地区のRLI（ロータリー・リーダーシップ研究会）の歴史は浅く、5年前の2017-18年度国立ガバナーの強い想いにより準備に取り掛かり、初めて「体験セミナー」を実施、多くの皆様に高評価を受け、翌2018-19年小山ガバナー年度に地区としてRLIに正式参加。多くの皆様のご協力のもとDL研修を重ね、同年6月に地区初「第1期RLIセミナーパートⅠ」を開催し、翌2019-20年福田ガバナー年度に引き続き第1期パート「パートⅡ・Ⅲ」を開催いたしました。この年度正式に「RLI委員会」となり、立ち上げから尽力された渡邊葉子前委員長が初代委員長に就任。同年「第2期RLIセミナーパートⅠ～Ⅲ」を開催する予定でしたが、コロナウイルス感染拡大により全て中止。2020-21年福井ガバナー年度にはいつ終息するか分からぬコロナ禍のためリアルからオンラインにいち早くシフトし更なる研修を重ね、「第2期RLIオンラインセミナーパートⅠ～Ⅲ」を実現。この年度よりRLI委員会は地区組織図の中でどこにも属さない独立した委員会となりました。そして前年度大日向ガバナー年度では「第3期RLIオンラインセミナーパートⅠ～Ⅲ」を実施、さらに初めての「卒後コース」にチャレンジいたしました。

このように委員会として3年、足掛け5年を経過し、受講者及び修了者とDLが徐々に増え、多くのDL研修を経て3期におよぶセミナーと卒後コースを開催、当地区のRLIは手探りながらも経験を積み成長を遂げてまいりました。多くの方々のご協力とご指導によって、そして渡邊前委員長の力強いリーダーシップと試行錯誤しながら共に歩んできたDLの皆様によって、経験と実績という土台を築き、我が第2510地区のRLIの今日があります。

2022-23年石丸ガバナー年度のRLI委員会は、第2フェーズに進む機会に来ていると思います。今まで同様ぶれることなく、「RLIを通じてクラブの活性化を目指す」という「RLIの目的」を遵守し、ロータリアン一人一人がセミナーを通してロータリーを学ぶ「きっかけ」を掴む機会を作り、それがクラブの活性化へ繋がるように活動してまいります。

今年度RLI委員会は下記を目標に活動してまいります。

- ①RLIセミナーパートⅠ～Ⅲ及び卒後コースの開催。
- ②RLI委員会の組織運営の確立と強化。
- ③RLIの広報活動の促進。



RLIは、研修を通してクラブを強くするためのリーダーシップ開発及びロータリー開発のプログラムです。必ずやロータリアン一人一人、またクラブに良い変化をもたらすと確信しております。しかし、RLIは実際体験してみなければ良さと効果は分かりません。より多くの会員の皆様にRLIを体験していただき、ご自身のリーダーシップを磨き、そして学んだ事やその手法をぜひクラブや職業に生かしていただきたいと願っております。

小山司地区代表ファシリテーターと委員会・DLメンバーとともに、力を合わせて活動に邁進してまいりたいと思っております。一年間、よろしくお願いいたします。

## 「就任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 クラブ奉仕委員会  
委員長 北川好和



この度、前年度に引続き地区クラブ奉仕委員長を拝命しました札幌幌南ロータリークラブの北川好和です。今後とも皆様のお力をお借りしながら一年間頑張ってまいりたいと存じます！  
よろしく願い申し上げます。

さて、地区クラブ奉仕委員会では**年度地区目標の達成と「クラブの活性化」**を目指します。そのためには、

1. **クラブの活性化のための、クラブに寄り添った活動！**
2. **「クラブが主体」をモットーに！**

の二つを基本的スタンスとした活動を行ってまいります。

なお、各クラブに対する具体的な支援活動と致しましては、

- ①**当委員会と3つの関連委員会への直接お問い合わせ窓口の設置（E-mail）**  
※「広報ハイブリッドカード」から簡単アクセス。
- ②**各クラブにご活用頂けるアンケート結果の配布。（同アンケート配布済）**
- ③**各クラブが3年後、5年度など自クラブの将来性を検討する委員会又は会議体などを設置するための支援体制の確立。**
- ④**「広報ハイブリッドカード」の活用により①のE-mailアドレスやMyRotary、地区ホームページ、地区Facebookへのアクセスを簡単に行えるようにすることで、MyRotary及びFacebookの登録率UPやホームページの視聴率UPに貢献する。（同カード配布済）**
- ⑤**当委員会と3つの関連委員会が地区ホームページや地区Facebookにクラブで活かせる最新情報や動画などの発信を行う。**

以上5項目を通してご支援してまいります。

また、「クラブ奉仕」とは各クラブが培ってきた個性や特異性を尊重し、クラブの自主的で独創的な目標や計画を具現化することにより、クラブの成長と発展を図るものであるといわれています。当委員会といたしましても、常に「クラブが主体」であることを第一としたご支援をさせていただきますので、何かお困りごとや相談ごとがございましたらお気軽に相談窓口（E-mail）までお問い合わせ頂ければと存じます。

そして、ロータリー活動が地域社会に効果をもたらしていることをクラブ会員が共有し、さらにその輪が広がっていく仕組みになっていることが必要であり、その仕組みこそが「**クラブ戦略計画（中長期計画）**」であるともいわれています。当委員会としても上記クラブ支援③にありますように各クラブへ戦略計画の重要性をご理解頂くために尽力して参りたいと考えております。

RIでは「**ロータリーのビジョン声明**」を具体化するための「ロータリーの行動計画」を作成し、これを実践するために2019年から5年間の活動を方向づけた4つの優先事項である「**ロータリーの戦略的優先事項と目的**」に沿った「戦略計画」立案を各クラブに対して要望しておりますので、ご検討をお願い致します。

最後になりましたが、クラブ各位におかれましては今後ともオリジナリティを發揮され建設的な活動をして頂きたいと存じます。当委員会と致しましても精一杯サポートをさせていただきますので、ご指導ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 「就任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 ICT委員会

委員長 堀元 雅司



本年度、引き続きICT委員会委員長を拝命いたしました堀元でございます。平素はICT委員会の活動にご理解ご支援をいただいております。会員の皆様に厚く御礼申し上げます。前年度も、新型コロナウイルスの感染者が増えて例会も通常に開催できない状況の中、会員のコミュニケーションツールとしてZOOMを利用したクラブも多かったのでは無いでしょうか。これもICTの一つですから、ICTの利用が増えたのでは無いかと思えます。今年度は、やっとコロナの感染者も落ち着きはじめ、通常の例会に戻って行くと思えますが、今後も、ハイブリッド開催で進むクラブも有るのでは無いかと思えます。2021-2022年度 大日向ガバナーの目標の中に、「ロータリー情報の提供、広報、クラブ目標の設定などあらゆる手続きにおいてインターネットの活用を推進する。」と有りましたので、地区ホームページを閲覧して頂き利用してもらえるように、各委員会から直接情報アップロード出来るように進め、各クラブからもタイムリーな情報を直接発信出来るように進めて来ましたが、まだ、利用率が少ないと感じますので、更に、石丸ガバナー年度で、大きくリニューアルをして、会員の皆様に有益で便利な地区ホームページにして行きたいと考えております。

ICTとは情報通信技術を活用したコミュニケーションを意味しますが、この中には、数年に渡って登録のお願いをしていますMy Rotaryも入ります。国際ロータリーの推奨するロータリアンの為のホームページです。My Rotaryもかなり使いやすくなり、様々な情報も検索出来ますし自己研鑽にもなると思えますので、まだ、ご利用されていない会員の皆様には、ぜひ登録をお願いします。今、情報を検索するデバイスの割合として7割の方が、スマホから検索やホームページをご覧になっています。もちろん、SNSの閲覧もスマホが多いと思えます。SNSは国際ロータリーも推奨していてFacebookやTwitterなどで情報発信をしています。ICT委員会もFacebookで情報発信をしています。現在、登録されている会員も300人以上になっています。こちらにも更に登録会員を増やして、媒体力を高めて行きたいと考えています。こちらは、手軽に情報発信や受信できるので、とても便利だと思います。会員の皆様から投稿に期待しております。

石丸ガバナー年度の、地区目標の中に、「ICTも利用して交流の輪を広げる。」とあります。ICT委員会として交流の輪を広げられるように、情報を発信してまいりますので、皆様のご協力を重ねてお願い申しあげまして、私のご挨拶とさせていただきます。

一年間、どうぞよろしくお願いいたします。



ICT委員会リンク



## 「就任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 ロータリー情報委員会

委員長 坂井 治



今年度で3年目ということで過去二年間の活動の集大成として次のように一年間活動をしてまいります。

2020-2021年度から継続していますクラブ奉仕委員会の合同のアンケート調査、そして調査の結果見えてきた問題点の解決のお手伝い出来るように分析し活動を進めてまいります。

地区ロータリー情報委員会は基本的には今年度、ジェニファー・ジョーンズ国際ロータリー会長テーマ「イマジンロータリー」及び石丸ガバナーの地区目標に沿って活動いたします。  
また石丸ガバナーからの「ロータリー章典の周知と啓蒙」と言うご指示に従いその推進のために活動をしていきます。

では具体的に活動の内容をご紹介します。

1 前年度に引き続き地区クラブ奉仕委員会と連携して各クラブに対してアンケート調査を行う  
⇒調査のための調査ではなくアンケートに回答してもらうことによりRIテーマや地区の目標などが回答者に伝わるような内容にします。  
すでに石丸年度に向けてのアンケートを今年の3月29日に各クラブ会長エレクトの皆様へ配信し、4月18日に最終集計も終わりました。

2 前年度に引き続き地区内クラブのロータリー情報委員会同士の連携を図るためのZOOM座談会の開催  
⇒気の張らない座談会形式として一クラブ一名ずつが互いのクラブの活動などを話しあい気軽に情報交換が出来るような基礎作りを行います。

グループ内での会員同士の交流が少ないので参加していただいたクラブからはご好評を頂いています。  
(5月までに第7、第2、第3の各グループの座談会を終了)

3 会員増強用リーフレット制作のノウハウ提供  
⇒アンケート調査でノウハウ提供が必要と希望されたクラブに対して具体的なお手伝いをする  
クラブ会員増強のためにクラブとしてまず入会候補者に説明するためのわかりやすいリーフレットが必要ですが、自前で作ろうと思うと費用の問題や作り方のノウハウがないというクラブもありわかりやすく説明できるように方法を考えます。  
すでに地区ホームページの委員会のページに各クラブからご提供いただいた事例や制作方法を掲載しております。  
(2022年5月20日第一回実施済み)

基本的にクラブ・ロータリー情報委員会は経験豊かな会員によって構成されていると思われるので地区委員会も会長以上の経験者で構成致しました。今年度は特に7名中6名がガバナー補佐経験者、1名は次期地区代表幹事という構成で各クラブからの多岐にわたる要請にお答えすることが出来るようにいたしました。

各クラブのロータリー情報委員会からの要請に応じてサポートするのが当委員会の役割です。  
皆さんがどのような情報を必要とされているのか、またどのようなことで困っているのかをピックアップするのがアンケート調査です。

その調査結果をふまえて活動をしてまいります。

(参考)

ロータリー章典

ロータリー章典には、ロータリーの一般方針や基本方針が掲載されており、RI理事会会合と規定審議会の後に改定されます。

規定審議会は2022年4月に開催されました。

## 「公共イメージ委員長就任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 公共イメージ向上委員会

委員長 松倉 弘



前年度に引き続き、2022-2023年度の公共イメージ向上委員長を拝命しました小樽RCの松倉 弘でございます。

従来の広報委員会から公共イメージ向上委員会に委員会名代わり3年目を迎えますが、広報と公共イメージとでは何が違うかと言うと、広報の主体はクラブであり、クラブが自らの意思でロータリーの魅力や奉仕活動の意義を外部に向けて発信しようとする行為であります。一方、公共イメージの主体は外部にあり、ロータリーを認知しているかどうか、ロータリーに関心を持つかどうかは、クラブが地域社会の中で、どれだけ存在感を持っているかであります。

本年度の石丸ガバナーの地区目標の中に「より多くの会員の参加を得てクラブにおいて新たな事業に取り組む」「ICTも利用して交流の輪を広げる」があります。交流の輪は会員同士だけではなく、クラブと地域社会及び会員と地域社会との交流も含まれていると解釈しております。また会員一人一人が地域社会との関りを持ち、より多くの会員が活動に参加して頂く事で、ロータリーの公共イメージ向上と認知度向上が図れると考えております。

そのために、当委員会は次の活動を行います。

1. ロータリー公共イメージコーディネーター及び他の地区委員会と連携し地区内クラブに公共イメージ向上の情報提供を行う。
2. 地区内においてロータリーブランドを構築するためにMy Rotaryからロータリーブランドリソースセンターの活用を各クラブに推進するように発信する。
3. 各クラブのプロジェクトや活動を地域社会に向けて発信する広報戦略のサポートを行う。
4. 地域社会における認知度向上の施策の研究、R Iの公共イメージ戦略の把握を行い地区にインプットする。

各クラブが、広報だけではなく、地域社会との関わり方や継続的な地域社会への奉仕活動、更には、会員が地域住民としての普段の言動により、地域社会に貢献するクラブとしての公共イメージ形成を行い、ロータリーへの参加者の基盤を広げて頂くために、微力ながらご協力させて頂きたいと思っておりますので、1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 「委員長就任挨拶」

国際ローター-第2510地区 青少年交換委員会

委員長 池田達昭



本年度より、青少年交換委員会委員長を仰せつかりました池田です。どうぞよろしくお願いいたします。

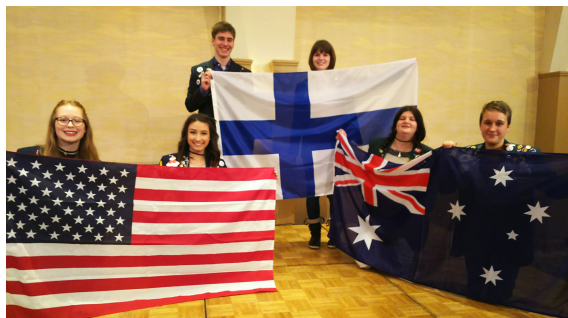
まず、長い間委員長を務められた西村英晃前委員長に心から謝意を申し上げます。西村氏は、ご自身が高校生時にこのプログラムに参加され、本人は学友として現在も奉仕活動に活躍し続け、そのまま当委員会委員長として6年の間、20名ほど海外へ派遣、同人数の海外の高校生を受け入れてこられました。ご自身のご経験から得た貴重な体験とその青少年交換に対する熱い思いを引き継ぎ、さらなる発展させることができると考えております。

2019年初頭、世界中に蔓延した新型コロナウイルスによって分断された社会が、差別と格差をさらに生み、他を思いやる気持ちを失いつつあるように感じます。外交意識も薄れ、国際会議も民間レベルでのビジネス提携などほとんど進んでいないようです。日本の存在感が消失しそうな勢いです。多様化する国際社会の中で共生するために、そして持続可能な社会を再構成させるためにも平和親善大使として日本的な平和主義を持ち、気配りができるような人材を私たちは育てなくてはなりません。大方の我関せずといった日本気質の脱却を率先できる若者を輩出し、世界市民として自覚するという考えを抱かせるプログラムとして、世界への奉仕活動であるロータリーの魅力を若者たちと一緒に考えていきます。

さらには、世界のロータリアン120万人のネットワークの有用性を発揮することのできる世界共通プログラムであることを再認識し、未来を担う日本の青少年たちが自立し国際的な社会性を持ち、国境を越えた友情を育むことで世界平和を目指すことのできる意義深いプログラムと理解することが重要と考えております。

石丸ガバナーは、地区目標として青少年への奉仕に重きを置く年度とされておりますことから、当委員会としてもより多くの高校生を海外へ派遣、そして受入を推進すべく努力をしております。そのためには是非貴クラブから候補生の推薦とホストクラブとしてのご協力がなくては達成することができません。第2510地区全体で北海道のさらなる国際化を目指し、数多くの学生を派遣・受入を70クラブで支えていただけることを切に願っております。

西村前委員長からのご指名を謹んでお受けし、委員会運営という重責を誠実に果たしていく所存でございます。どうぞ皆様からのご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



## 「委員長就任挨拶」

国際ロータリー第2510地区 RYLA委員会

委員長 齊藤 朋博



2022-23年度RYLA委員長を担当させていただく事になった齊藤朋博と申します。所属は札幌南ロータリークラブで30歳時にローターアクトを卒業し、入会させて頂いたので8年目となります。ローターアクト出身という事から、ロータリークラブとローターアクトを始め、青少年との架け橋になりたいと思い、活動させて頂いております。

私とRYLAとの出会いは4年前に遡ります。羽部大仁PDGの命を受けて、余島（香川県小豆島）で開催された3泊4日のジャパンライラセミナーに参加した事でした。余島RYLAは今井鎮雄元RI理事と深川純一パストガバナーによって作り上げられたもので、日本のRYLAを作り上げた地とも言えます。青少年の育成に心血を注ぐロータリアン、誠実に学び、一日一日と目の色が変わっていく青少年の姿に心を打たれ、北海道に戻って参りました。

本年度のRYLAは2泊3日で、じっくりとチームビルディングを通して、リーダーシップを養成されるようプログラムを組んで参ります。1日目には、人との出会いとロータリーやRYLAを学び、2日目には仲間となりチームが形成されます。3日目にはチームが完成し、それぞれがリーダーとして深い絆が生まれます。心にRYLAの火を灯した青少年にはセミナー終了後地域でのリーダーとしての活躍とともに、ライラ学友としてセミナーの運営などに関わって頂きます。

また2023年5月20-21日には全国からRYLA担当委員長、関係ロータリアンが集まって、全国RYLA研究会が開催されます。これまで継続されてきた第2510地区のRYLAへの注目が集まる中、2泊3日の充実したセミナーとすべく委員会が一丸となって取り組んで参ります。

## 「委員長就任あいさつ」

国際ローター第2510地区  
財団補助金委員会・ローターカード推進委員会  
委員長 **大川 武志**



2022-23年度財団補助金委員会とローターカード推進委員会の委員長を務めさせていただきます恵庭ロータークラブの大川武志です。1年間どうぞよろしくお願い致します。  
財団補助金委員長は2年目、ローターカード推進委員長は1年目です。それぞれの立場でご挨拶をさせていただきます。

### <財団補助金委員会>

地区のロータリアンの皆様には、日頃から地区補助金事業にご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。お蔭様で2022-23年度の地区補助金の配分も決まり、ローター財団に申請をさせていただきました。2022-23年度は、35クラブ34プロジェクト、5委員会から申請をいただきました。2022-23年度申請分から締切り、申請書など変更事項がたくさんありましたが、各クラブの皆様のお蔭で無事に受付を終了する事が出来ました。今年度のプロジェクトもとても興味深いプロジェクトばかりでした。是非、今後も地区補助金が各クラブの社会奉仕活動の一助となれば幸いです。

さて、当委員会は、今年度私を含め3名で委員会を構成させていただいております。主な活動内容は、地区補助金の申請や報告などの管理業務と地区補助金の広報活動です。掲載の写真は、札幌真駒内ロータークラブさんでの卓話の写真です。地区補助金を利用した事のあるクラブさんには馴染みやすいかと思いますが、どうしても敷居が高いイメージがあるクラブさんが大半だと思います。ただ、地区補助金はローター財団の補助金の中でも制約の少ない補助金です。是非、積極的にご活用いただければと思っております。その為にも卓話や補助金管理セミナーなどでの広報活動は大切だと考えております。もし卓話のご依頼やご質問等ございましたら、お気軽に財団補助金委員会専用メールアドレス (hojokin2510@gmail.com) へお問い合わせください。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

### <ローターカード推進委員会>

今年度から新設された委員会です。まだ馴染みの無い方ばかりだと思いますが、今までは、ポリオプラス委員会の中でローターカードを推進しておりました。他の地区では、単独でローターカードを推進する委員会があり、今年度は、当地区でもローターカードを推進する委員会を新設し活動する事となりました。財団補助金委員長との兼務ですが、一生懸命取り組みたいと思います。まずは、当地区ローターカードの利用状況を把握し、何をどの様に推進するのかを委員の皆さんと一緒に考えて行こうと思っております。

せっかくの機会ですので、少しだけローターカードの概要をお伝えさせていただきます。ローターカードは、個人・法人・各クラブ（会長等の名義）で申込可能です。カード会社は、オリコ（マスターカード）さんとダイナースカードさんです。オリコ（マスターカード）は、オリコさんのホームページから個人カードであれば、簡単に申込出来ます。また、法人カードや各クラブのクラブカードをご希望の際は、当委員会へご連絡下さい。ローター財団への寄付もローターカードでMy Rotaryから簡単に出来ます。今後は、可能な限り各クラブでクラブカードを持っていたり、RI人頭分担金をローターカードでお支払い下さい。このローターカードでの寄付や利用額の0.3%（ガードの種類によっては0.5%）がポリオ根絶の資金となります。皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。

## 「自己紹介」

---

国際ロータリー第2510地区 財団資金推進委員会

委員長 米谷隆三



私は現在78歳で、札幌生まれの札幌育ちです。

平成6年(1994年)6月に札幌東ロータリークラブに入会いたしました。

2510地区での活動歴と致しまして、主に2008-9年度から2011-12年度の3年間米山学友委員長を務め、その後も引き続き会員として約4年間活動に携わって参りました。この間、世界の様々な学友達との交流によって貴重な経験を得ることが出来ました。

その後暫くは地区活動に参加していませんでしたが、2021-22年度から3年間地区財団資金推進委員長を仰せつかり、来年度は2年目を迎えます。

なお、2017年10月に、ロータリー財団が主宰するアーチ・クランフ・ソサエティ(略称AKS)の管理委員会サークルのメンバーになり、翌2018年にはRI本部が置かれているシカゴ郊外のエバンストン市で行われた入会式に参列致しました。

今後もロータリアンとして財団の指標を理解しつつ、より良い地区活動を進めていく所存です。 了

## 「入井浩樹の自己紹介と米山記念奨学事業に対する思い」

国際ロータリー第2510地区 米山記念奨学会・学友委員会  
委員長 入井 浩 樹

始めに自己紹介をさせていただきます。

私は1960年6月北海道滝川市にて出生し現在62歳になりました、滝川ロータリークラブへの入会は2015年12月で御座います、RID2510地区米山記念奨学会には2018年3月からガバナーの委嘱を受け現在は委員長を仰せつかる事になりました、本年度の滝川ロータリークラブでの役職はS A Aを仰せつかっております。

次に米山記念奨学事業について私の思いをお話させていただきます。

米山記念奨学事業を一年、そしてまた一年と地区委員会で学んで行くと海外から来る優秀な留学生に日本は「人を慈しみ、人を愛おしむ」民度を持った国です、という事を、心の底から伝えなければと思いました。

日本は一部の国からですが「無慈悲で恐ろしい国」だと思われているという事を米山記念奨学生から聞いたことが有ります、その奨学生は親からその事を生まれた時から聞かされ、本人もそう思っていたそうです、しかし様々の情報から日本で学びたいという思いから、親の大反対を押し切り日本への留学を決意し日本へ渡航したそうです、そしてその留学生は成田国際空港に降り立った瞬間にその事が払拭されたそうです、それは空港職員からの心のこもった接客接遇を受け腰が抜けるほど感動をしたそうです。

私はそのお話を聞き、日本はG D P世界3位の国で有りながら一部の国とはいえ、沢山の誤解を受けている事にショックを受けました、この事から世界中の人々に本当の日本国、本当の日本人を知って頂くには、この米山記念奨学事業は大変有意義だと感じております。

米山記念奨学事業は国連サミットで採択されましたSDGs「持続可能な開発目標」や国際ロータリーの「7つ重点分野」などに寸分たがわず当てはまっていると考えています、米山記念奨学事業のメインテーマで御座います、留学生の母国（世界）と日本の架け橋となり【平和と国際理解の推進】を更に前進をさせる為に米山記念奨学生の心のフォローと世話クラブ様のフォロー、そしてRID2510地区全ロータリークラブ様への米山記念奨学事業へ更なるご理解を頂けるよう全身全霊で米山記念奨学会委員長の任に当たりと考えておりますのでどうか皆様方の心強い応援をよろしくお願い致します。

※photoは滝川ロータリークラブが世話クラブをお引き受けした際の米山記念奨学生と入井（私）です。



## 「学友委員長を拝命して」

国際ロータリー第2510地区 学友委員会

委員長 鈴木抄織



今年度より学友委員長を拝命いたします、鈴木抄織と申します。  
どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

学友委員会のメンバーは、青少年奉仕委員会、青少年交換委員会、RYLA委員会、インターアクト委員会、ロータリーアクト委員会、財団奨学金・平和フェロー委員会、米山記念奨学・学友委員会、国際奉仕・VTT委員会から構成されています。

様々な委員会、そして学友会と連携し、ご協力をいただきながら「学友交流会・帰国報告会」の開催を目指してまいります。今までの経緯を申し上げますと、菅原秀二元委員長が現在の「学友交流会・帰国報告会」、全てのプログラムの学友が交流できる会の形を創ってくださり、前田浩人前委員長が引き継がれ、6年連続の開催を実現しております。コロナ禍で、直接集う会の開催が困難な中、万全な感染対策の下、途切れる事なく開催を実現されたことに、学友の一人として心より御礼を申し上げます。学友にとって帰国報告会は、ロータリーから頂いたご支援のお陰で留学できたことへの感謝を伝えるとともに、留学で学んだ成果をきちんと報告させていただく場として、とても重要でございます。

直近の第6回は、初のハイブリッド方式を取り入れ、海外で留学継続中の学友より現地から報告してもらおうという、新しい試みに挑戦し、臨場感あふれる回となりました。今後も、海外に滞在中の学友にどんどん参加していただき、ロータリーとの繋がりを広げてまいりたいと望んでおります。

また、プログラムを超えた学友の交流も、徐々にではありますが増えてきております。今後盛り上げていければと思っております。

皆様のご協力を賜りながら、楽しい学友委員会にしていまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



## ガバナー四方山話

2510地区の皆様、この7月1日より1年間皆さんが所属する第2510地区のガバナーとしての役目を務めることになりました石丸修太郎です。これまでガバナー月信の巻頭はガバナーからの有難い教えやメッセージで飾られておりましたが、私にはそのような素養も知識もありません。そこで、どのような人間がガバナーを務めているか皆さんに知って頂くために自分がこれまでに過ごしてきた海外を含めて想い出話を中心に12回の連載にしてお伝えしようと思います。どうぞお付き合いのほどよろしく申し上げます。

### 第1回 生い立ちから青年期

1954年11月、税理士試験の受験に備えて札幌から上京した父を追いかけて、東京へ向かった母のお腹に私は居りました。函館港を出た連絡船から洞爺丸がひっくり返ったままの姿を見た母が話してくれて、その年に洞爺丸台風というものがあって知ったのは小学校に入ってからでした。その年の12月に東京の広尾にあった日赤病院で生まれたのですが、姉二人の後の男子で受験勉強中の身の父親が一人で祝杯を上げたことも小学校になってから聞きました。

翌年、1発で5科目合格を目指していた父でしたが、残念ながら2科目しか合格しておらず、持ち金も無くなり、母と子は札幌に戻ることになり、私が東京に滞在したのは11ヶ月足らずで当然何の記憶もございません。アルバイトをしながらの生活で翌年の試験で残りの3科目に合格した父が札幌に戻り、昭和32年に石丸税務会計事務所を開設しました。

実家の2階を改装し事務所としましたが、関与先がそう簡単に増える訳もなく、副業にそろばん塾をしたり、週末は、事務所の机をよけて、バレエ教室に貸し出したりと少しでもお金になることをやっていたようです。

私が幼稚園に入った頃には多少関与先も増えたのか、父が関与先から集金した帰りにススキノに引っ掛かるようになり、そのような時は私の手を引いて母がススキノへ行き路上に停まっている父の車を見つけ、母が合いカギで車に乗り、私に車の前にある怪しげはお店を指さし「呼んできて」の一声。

幼稚園児が一人で暗い階段を降りるとそこはミラーボールが回る別世界。お店のお兄さんが、「僕どうしたの?」という問いかけに、健気に「お父さん呼びに来た」というと、特段止めるわけでもなく通してくれて、店の中へ。いわゆるボックスシートがいくつもある中を歩き回り、父を発見するとお姉さんたちとお戯れの最中。後ろから洋服を引っ張り「帰るよ」と声を掛けると、驚きの表情の後、意外と素直にお仲間に「じゃ失礼」と私の手を取って帰宅ということが何度かありました。そのような場所がキャバレーと呼ばれる場所であることを知ったのはかなり経ってからでした。

親が勝手に決めて、近所の幼稚園が終わるとバスと電車で通う小学校に入学しました。教育大の付属小であったため、小学校2年の夏休みに学校の近くに引っ越しをして、その結果、近所にお友達がおらず、姉と家の中で遊ぶことが多かった幼少期でした。

高校受験制度が小学区制から大学区制に変わりどこの高校でも良いということで、姉の勧めで札幌西高校に行きましたが、今思うと、実に青春を謳歌していたのだと思います。学生運動のはしくて生徒会に首を突っ込み、3年生のときとうとう制服を廃止してしまい、私服での卒業第1期生となりました。

大学は親元から離れることを夢見て、明治大学に行くことになりましたが、東京での一人暮らしは、自由というものを心底実感出来た素晴らしいものでした。麻雀、ビリヤード、アルバイト、異性交流と暇なく動き回り気が付いた時は就職には向かない成績で、仕方なく国家試験を目指すことになりました。

## 表紙の解説（第7グループ）



支笏洞爺国立公園は日本全国で16番目、北海道内では阿寒国立公園（現・阿寒摩周国立公園）、大雪山国立公園に次いで3番目に指定されましたが、指定までのあゆみは大正時代まで遡ります。1920年「史跡名勝天然記念物法」が施行され、1921年に内務省が国立公園候補地16カ所を発表。道内では、阿寒湖、登別温泉、大沼が入っていましたが、支笏湖、洞爺湖は含まれておりませんでした。そこから、定山溪温泉がある豊平町（現・札幌市）

が支笏、洞爺、定山溪地区の11市町村に呼びかけ、1946年に「道南国立公園指定促進期成会」を設立し、連合軍総司令部（GHQ）の調査を経て、1949年5月16日に「支笏洞爺国立公園」に指定され、今年で73年になります。

支笏湖は、およそ4万年前に支笏火山の噴火でできた陥没地に水が溜まって形成されたカルデラ湖です。名前の由来はアイヌ語で“大きな窪地”を意味する「シ・コツ」が語源と言われ、古くから千歳の貴重な水源とされてきました。長径13km、短径5kmの東西に長いマコ型の湖で、周囲は約40km、最大深度約360m、平均水深約265mと国内では、秋田県の田沢湖に次いで2番目の深度を誇り、日本最北の不凍湖です。水中の栄養分が少なく、プランクトンの発生も少ないことから透明度は非常に高く、水質は2018年度まで11年連続日本一に評価され、水のアクティビティーをする方も多く訪れます。

この透明度と水質を誇る支笏湖の澄んだ水は光に照らされることで「支笏湖ブルー」と言われる青色の輝きを放ちます。

また支笏湖の清らかな水は周辺の自然も豊かにしています。標高1,000mを超える風不死岳、恵庭岳、樽前山など美しく雄大な自然を育み、新緑、紅葉、雪景色など四季折々に表情を変え、訪れた人を癒し楽しませてくれます。

支笏湖には、ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物温泉の泉質を持つ支笏湖温泉と支笏湖で一番古い歴史を持つ丸駒温泉（ナトリウム-カルシウム塩化物泉、炭酸水素塩、硫酸塩泉）がございます。国内外からの多くのお客様が支笏湖の大自然と温泉を求めてお越しいただいております。

近年ではアクティビティーも盛んで、カヌーやカヤック、淡水ダイビングなども体験できます。またキャンプの利用者も多く、千歳観光連盟が運営しております美笛のキャンプ場は聖地として喜ばれております。

これからもこの大自然の環境を守り、ゼロカーボンパークとして脱炭素化を地域挙げて目指してまいります。

**Rotary**  **District2510**